

アンケートによせられた声（例）

○今抜本的改善をしないと、全国の学校が崩壊します。あとから騒いでも間に合いません。これ以上、子どもたちを泣かせないでください。としか言えません！ぜひ頑張ってください！現場の声を突きつけてください！！よろしくお願いします！！（小・30代）

○今の学校で必死に働いている人への対応がないから、どんどん離職するのでは。わたしも続けたいですが核家族家庭で、息子を育てながら激務をこなせません。人手不足なのに贅沢と言われてしまいますが、子育て支援がないと子供が小学生になったときに自分の子を犠牲にする働き方はできません。もちろん続けたいのですが。（中・30代）

○学校が回らなくなるのはもう時間の問題だ。（特・50代）

○ 私は現在教育学部に在籍している大学3年生です。ここでコメントしても良いのか迷いましたが、コメントさせていただきます。私たち教育学部生も、もう日本の教育には絶望しています。まわりの大多数も民間を受けようと考えています。ただでさえ教員は足りないのに、目指す人もいなくなってきました。ずっと議論がなされていて、すべきことはもう自明なのに動かない国に憤りを覚えています。急がなくては本当に教員がいなくなります。このように動かれている議員の方がいることが、それでも教員を志す私にとって唯一の心の救いです。（その他・20代）

■教員不足の解決は、働き方の改善なしには不可能という声

○なぜ今現場で頑張っている人を差し置いて、ほかの人を増やそうと言うのか？現職の先生がイキイキしていれば、苦労しないはず。まずは現職の先生に目を向けてほしい。なんなら、働いている様子を視察してはどうか。（小・30代）

○「まずは隗よりはじめよ」今働いている教職員を大事にせずに「優秀な人材」「即戦力」など求めても片腹痛い。労働は正当な対価を得て初めて誇りと責任が生まれるのである。（中・30代）

○学校の働き悪さを良くしない限り、働こうとする人が増えない。働いてと呼びかけるだけなら、どこの教育委員会もすでにやっている。何が問題なのか全く理解してなくて残念な大臣様である。（小・40代）

○全てに共通して言えることですが、教師のバトンで明らかになった現場の課題を、何一つ改善しないのに、人を集めたいからと的外れの政策を提案するのはなぜですか？現場の過酷な状況を見て、希望者が増えているのだから、現場の状況を改善しようという発想に至らないのはなぜですか？大臣、文部科学省以外の現場教員はみんな解決策が分かっています。分かっていないのは国だけです。未来の日本のことを本当に真剣に思うのであれば、教育に投資すべきです。防衛費が何になりますか？どうして現実から目をそらすのですか？（中・20代）

○ブラック企業と言われても仕方がないほど、残業代は無いのに残業あるいは持ち帰り仕事が多すぎる。病休、退職により欠員が出てさらに教員不足。早くから分かっている産休

代替も見つからず何ヵ月も欠員のまま。過酷な職場環境の改善が欠員の解消に不可欠。(特・50代)

○教員不足で一番効果的なのは、教員になれる人の要件を甘くすることよりも学校でやるべきこと、その必要がないことを改めて精査して一人ひとりの業務の軽減を図ること、また教員の給与面での待遇改善を図ることだと思います。(小・30代)

○教員不足の原因はそもそも教員養成や採用試験ではないです。国立大学の教員養成課程の学生が「教職はブラックだ」ということを懸念して教職に就くことを避けています。(中・30代)

■文科大臣の4つの提案についての声

○何をどう考えてこの4つの案が出てきたのか。現場の声を全く聞いていない。教員不足の原因は、現場の教員、教員を辞めた人、教員免許を持っているが教員にならなかった人など、当事者の声を聞くべきなのに、現場を知らない人間が勝手な思い込み、思いつきで対策を語らないでほしい。(小・40代)

○特別免許状の濫用はやめてほしい。民間活用で児童生徒学生にマイナスのケースが見受けられる。(その他・50代)

○企業の人がブラックだとわかってる環境に飛び込んでくるとは思えない。(高・40代)

○大学でしっかり教育学を学んだ人たちを馬鹿にしている。(その他・20代)

○今も行われていると思う。少なくとも私の卒業した、大阪教育大学は、[他県名]の採用試験の情報も丁寧に教えてくれた(小・30代)

○離職された方は何らかの理由があつてのことなので可能性は低い(特・50代)

○嫌になって離職したのに、何も改善されていない現場に戻るわけがないです。(中・20代)

○試験を受けられる時期を早くしたところで、このブラック労働であることは学生には伝わっているため、受験者は増えない。(小・20代)

○早期化、複線化するよりも、講師経験の長い先生が受かりやすいようにすべき(小・30代)

■教員不足の対策についての意見・要望

○今まで何年も講師をした方で、年齢が上になり採用試験を諦めた方もいます。そういうベテラン講師を優先的に本採用にするべきです。そうなれば、中堅教員も増えるのではないかと。(小・60代以上)

○始業式の日から欠員状態でスタートしている学校がたくさんあります。医師から病休を勧められているのに我慢している人や、介護休暇を取りたくても遠慮して言い出せない人もいます。なぜこうなってしまったのか？それは、今まで長い間正規採用を少なく抑え、臨時的任用を濫用してきた上に、低い待遇で何年も学校を支えてくれた長期臨時教員経験者を使い捨てにしてきた教育行政の失敗です。以前なら採用試験に落ちても臨時教員を

希望する人がいましたが、今は一度落ちたら、そんな報われない仕事をするくらいならと民間へ行ってしまいます。人を人とも思わない学校現場では、今の若者は入ってきてくれません。まずはその姿勢を改め、その証として現在働いている臨時教員を全員正規にすることから始めてはどうでしょうか。(中・50代)

○長く働いている臨任を、雇って欲しい。(高・30代)

○中学校における35人学級の実現(中・30代)

○教職員の数だけ揃えても全員が万全の状態働いているとは限らない。何かあったときにカバーできるような余裕がない(高・20代)

○各職場の余剰人員が少なすぎる。コロナ禍で教員やその家族が陽性や濃厚接触者になったことで、現場大変混乱した。(小・50代)

○同一労働同一賃金が守られるよう、60歳を過ぎても給与は7割などに削減せず、10割支給して欲しい。というか、そうあるべき。(特・50代)

○忙しすぎる。他の職種なら法律違反(際限ない残業、残業代が出ない=最低賃金の保障がされていなき)ことがまかり通っていることがおかしい(小・30代まる)

○押しつけのGIGAスクール構想...私たちはエンジニアではないのに、トラブル対応にも追われますし、ただpcを使えと。(小・30代)

○・水曜は休校にして、子どもが来ないようにするか、教師の人数を増やしてほしい・1クラスの児童上限数を20人にしてほしい。または、1クラスに担任と副担任をつけてほしい。・教員免許がなくてもできる仕事は外部委託して、教師は授業や学級経営に集中できるようにしてほしい。(小・20代)

○部活動顧問強制に対する厳罰化をお願いします。(中高・30代)

○部活動の地域移行が話題になっているが、部活動だけが問題ではないと考える。平日は、授業の空き時間がほぼなく、教材研究や事務作業を行うのは部活が終わる17時半以降。この状態がほぼ毎日続いている。さらに、教材研究や事務作業は業務として認識されず残業代は支給されない。4%の教職調整額は、数十年前から一向に改善されない。平均残業時間が8時間という扱いの教職調整額、単刀直入に申し上げると、ありえない。私の勤務校では、残業を月45時間以内に収める呼びかけが行われているが、7~8割の先生は実現できていないだろう。理想と現実の相違が激しい。「効率的に業務を進められていない」などの次元の話ではない。業務量が多すぎる。(中・20代)

○「まちがいを犯さないように」教員を管理しようとする施策が多く、教員達もそれらに対応することに追われ、「形式的な」「形だけの」「証拠書類」をつくることに忙殺され、本来、必要な本当に大事な「教育」に割く時間をどんどん失いつつあり、教育活動に向き合う意欲さえなくなりつつあるように思います。(高・60代)

○今年度から初任で働いていますが、ただでさえ初めてのことばかりで一つ一つの仕事に時間がかかるのに、校外での初任者研修やその事後レポートに時間をとられてつらいです。研修の内容も、大学の授業や教員採用試験対策で勉強したものだったりして新しい学びも少ないため、時間ばかりとられてうんざりします。(小・20代)

■教員不足や働き方の実態

○4月から育休補助の教員が配置されず、その後も病休・育休で欠員が続き担任未配置3クラス、児童も荒れている様子。産休補助が来ず、欠員分教科の免許を持たない教員が家庭科を教える。(群馬県)(中・20代)

○成り手がいない。4月から本校だけでも、三人の欠員(特・40代)

○大阪府東大阪市では、昨年3学期、5年生2クラスの担任と、算数少人数の担当の計3人が欠員となっている学校がありました。元々2クラスの学校です。まず、5年生の一人の担任が病欠になり、もう一人の担任がチームズを使い2クラスの授業を同時に進めているときもありました。そのような無理が元で、もう一人の担任も病欠になりました。算数少人数の担当は産休に入ったあと、代替が来ませんでした。(小・50代)

○4月当初5名欠員、未だに1名欠員。昨年度は本校だけで病気休暇及び休職者は10名を超えました。(特・40代)

○○本校では、産育休に入られる見込みの方が複数おられます。体育フェスティバル、水泳指導など、母子とも体調が不安定な中では安心して行えません。しかし、補助職員の確保が難しいんですと言うだけで本来つくはずの補助はつかず、泣き寝入り状態です。どうしているかといえば、学年で無理やりに時間を捻出して代わりに授業をする、それもできないときには妊娠中の先生が指導されています。宿ったばかりの小さな我が子の命をかけて、目の前の子どもたちの教育をしています。(小・30代)

○毎日辛い日々が続いている。小学校2年生22人の担任で、人数は少ないクラスだが、特別支援を要する児童が複数いて、授業中は立ち歩きやトラブル、脱走などが常にあり、毎日休み時間は話し合いや子どもを探す時間で潰れる。空き時間の先生が助けてくれているが、みんな時間がないのに、それを費やしてもらうことが申し訳ない。放課後は、保育園のお迎えのため5じに退勤しなければならない。下校後の約2時間が勝負だが、保護者への電話連絡に時間を取られ、不登校の児童とも面談を毎週するため、時間は1分も無駄に出来ないと必死に過ごし毎日走ってバスに乗る。(小・30代)

○職場環境も悪い。壊れそうな学校。クーラーの無い職場、高齢の再任用、非常勤の部屋にはクーラーがなく、何度も熱中症になりかけた。大学出て、クーラーの無い職場は今時あり得ない。(高・60以上)

○私学に勤務していますが、法人の高校で非常勤の教員募集をしたところ、集まらず何度も募集をかけ、やっと採用できた教科もあれば、まだ決まらず専任が待ち時間増で行っている教科もあります。(小・50代)

○教職が魅力的な職業である事を多くの人に知ってもらいたい。自分の自由な裁量で仕事ができる事、子ども達の成長が間近にみられる事などです。頭の痛い保護者対応や、強制される事務仕事、評価を出すための授業、上位下達の組織、文科省や教育委員会に振り回されている状況、社会的地位が低く残業の割には給料が低いなどを知ると教員のなり手は居なくなってしまう。(中・60以上)